

事務事業評価シート

事業番号 No. 45		事務事業名 飼い主のいない猫避妊・去勢手術代助成金		所管部課 環境政策課						
基礎情報	事業開始時期【1】	平成21年度		実施形態【2】	☐ 直営 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ その他 ()					
	根拠法令等【3】	西東京市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成実施要綱								
	総合計画【4】	基本目標	4 環境にやさしい持続可能なまち	基本施策	10 環境に配慮した持続可能な社会を構築するために					
	個別計画【5】	計画		施策等①						
事務事業の概要	事務事業の目的と目指す成果【6】	飼い主のいない猫の不妊又は去勢の手術に要する費用を助成することにより、地域住民の理解を得るよう努めながら、市内に生息する飼い主のいない猫の数を抑制し、市民の快適な生活環境の保持及び動物愛護精神の高揚を図ることを目的とする。								
	事務事業の内容・実施方法等／補助の概要【7】	【補助の概要】 飼い主のいない猫の不妊又は去勢手術に要する費用を助成する。 ■支払い方法:確定払 ■申請から支払までの主な流れ ①申請受付、②審査(現地調査等)、③助成承認決定通知書の交付、④手術の実施、⑤確定通知書の交付、⑥実績報告に基づき支払 ※申請者は、市指定動物病院の獣医師へ助成金の請求・支払、実績報告の作成を委任する。手術費用の支払の際、助成金額を差し引いた額を市指定動物病院へ支払う。 ■補助額・率:メス(不妊):10,000円、オス(去勢):5,000円 ■補助対象(申請者):飼い主のいない猫に不妊又は去勢手術を受けさせようとする方 市内在住・在勤・在学の個人・事務所、事業所を有する団体等 ■国・都補助の有無:あり(医療保健政策区市町村包括補助事業補助金:1/2) ■上乗せ横出し補助の有無:なし								
事業費データ	項目	令和5年度(決算額)		令和6年度(決算額)		令和7年度(決算見込額)		令和8年度(予算額)		単位
	事業費計【8】	589		414		82		615		千円
	財源内訳	294		207		41		307		
	国庫支出金・都支出金	294		207		41		307		
	その他()									
	一般財源	295		207		41		308		
	人件費計【9】	1,341		1,487		1,487		1,487		
内訳	0.20 人 1,341 千円		0.20 人 1,487 千円		0.20 人 1,487 千円		0.20 人 1,487 千円			
正規職員	人 千円		人 千円		人 千円		人 千円			
会計年度任用職員	人 千円		人 千円		人 千円		人 千円			
総コスト	1,930		1,901		1,569		2,102			
活動実績【10】	項目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	①申請件数(オス・メス合計)	118	92	118	64	118	34	72	72	件
②										
成果指標【11】	項目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	地域猫に関する苦情(件)	0	7	0	1	0	5	0	-	件
	①【成果指標の説明】	いわゆる地域猫の数と地域住民からの苦情件数は相関関係にあり、苦情件数を減らすためには不妊・去勢手術が済んでいない猫の数を減らしていく必要がある。地域猫に関する苦情は、令和元年度が25件、令和2年度が19件であったことから、過去と比較して確実に成果が出ている。市としては、その他苦情があった場合には地域の団体への情報提供を行うなどの対応を実施している。								
	手術件数(オス・メス合計)	申請件数と同様	70	申請件数と同様	53	申請件数と同様	13	申請件数と同様	-	件
②【成果指標の説明】	申請件数と実績件数の差が生じている場合は、申請したが当該猫が捕獲できないなど、何らかの理由で手術を断念した場合などが挙げられ、申請後の捕獲に課題があると考えられる。									
事業環境等	事業実施においての課題点と改善に向けての取組【12】	避妊や去勢手術費用の一部を助成する制度だが、市民(申請者)の出費が発生するため、地域の団体との協力体制や獣医師会との連携が必要となる事業である。また、事務事業の目的達成のためには、ポスターやチラシによる周知啓発に加え、HPの掲載や譲渡会やイベントでの周知活動を実施しているが、近隣自治体や東京都との連携も含めたさらなる周知啓発活動が必要である。								
	他団体の実施状況【13】	26市中24市で実施している。そのうち15市が同額もしくは同程度の助成金制度を実施しており、残りの9市は同様の制度だが、当市よりも助成金額が高い額で実施している。								
	代替・類似サービスの有無【14】	☒ 有 ☐ 無	公益財団法人日本動物愛護協会で実施している「飼い主のいない猫の不妊去勢手術助成事業」助成額は同様。春夏秋冬1期につき5頭/人まで(年間20頭/人)という制限及び抽選となっている。							

【検証項目】

		一次評価	二次評価	本部評価	
検証項目 【15】	必要性	事業の実施が国・都の法令等で定められている	非該当	非該当	
		市が主体となって実施しない場合、市内における当該サービスの提供が不十分になる恐れがある	該当	該当	
		現下の社会経済情勢に見合った事業である	該当	該当	
	有効性	成果指標の達成状況はどうか	2	2	0 /9
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の対象は適切か	3	3	
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の内容・実施方法は適切か	3	3	
	効率性・経済性	業務プロセスに改善の余地はないか	2	2	0 /9
		投入したコストが活動実績に見合っているか	2	2	
		国・都の補助金や受益者負担など、一般財源以外の財源確保がされているか	3	3	

【一次評価・二次評価】

一次評価 【16】	必要性	周辺自治体でも同様の制度を設けているところが多く、助成額に関しても同程度である自治体が多い。市民や活動団体の負担を軽減するなど、地域猫活動においては必要な制度と考える。	二次評価 【17】	必要性	本事業は開始から17年経過し、ボランティア団体との協力体制や獣医師会との連携の下、着実な成果を上げている。また類似サービスにある補助は全国的なものであり、要件も一定の制限があることから、地域に根差した本事業は必要性が高いものと認められる。
	有効性	助成金自体の執行率は下がっているが、成果指標である苦情件数は年々減少傾向にあるため、確実に成果が出ていると考える。		有効性	地域猫に対する苦情が減少傾向にある状況では、本事業の有効性が認められるものであり、苦情件数の動向について、引き続き注視していくが必要になる。また、引き続き近隣市を含めた情報収集が求められる。
	効率性・経済性	コスト面においては、東京都の「医療保健政策区市町村包括補助事業補助金」の対象事業となっており、事業にかかった費用の1/2が補助対象となるため、一定の補助金が確保できている。また、一定以上の成果が出ていることから、人件費の面に関しても妥当であると考え。		効率性・経済性	市の補助事業の補助水準、財源確保や事業費コストの適正化が進む一方で、補助金以外の手術費用は主にボランティア団体が負っていることから、今後とも協力体制を維持していくために適切な対応が望まれる。

【外部評価】

評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【18】	

【行革本部評価】

	コストの方向性	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	総合評価	

改善の方向性と今後のスケジュール【19】	
----------------------	--